

中部エリアにおける一部系統ブラックスタート機能 の必要性について

2025年10月22日

調整力及び需給バランス評価等に関する委員会事務局

1. 本日の論点

(中部電力パワーグリッド：資料1－別紙)

2. まとめ

- 第12回制度設計・監視専門会合(2025年8月29日)において、ブラックスタート（以降、BSという）機能公募調達結果の報告があり、その中で中部エリアにおける一部系統BS機能の応札無しによる調達未達について報告された。
- 応札が無かった理由として、当該発電所では2028年度にBS機能の改修が必要となるが、2030年度以降を対象としたBS公募において、系統対策工事の実施等により公募が無くなった場合、BS機能設備費用を回収できないため、応札を見送ったということが、中部電力パワーグリッドから過去の契約事業者への聞き取りで判明している。
- 中部電力パワーグリッドとしては、当該系統は引き続きBS機能が必要な位置づけであり、期間的かつ地域的に新規参入を見込むことが困難であることから、随意契約によりBS機能調達を希望。
- 一方、制度設計・監視専門会合ではBS関連費用はレベニューキャップ制度の制御不能費用として託送料金に反映されることを踏まえ、対策の必要性（当該系統におけるBS機能の必要性等）や手段の有効性（BS電源を確保する以外の手段）等の観点から慎重な検討が必要となることから、その点について電力広域的運営推進機関で検討を実施したうえで、その結果を踏まえ制度設計・監視専門会合であらためて議論することで整理された。なお、今後BS機能公募含む特定地域立地電源公募について、類似の事案が発生した際には、同様の対応を行うこととされた。
- このため、本日は中部エリアにおける一部系統ブラックスタート機能の必要性について整理したため、ご議論いただきたい。

・中部電力パワーグリッド：資料1－別紙

中部エリアのブラックスタート機能調達未達への対応

- 中部エリアの2029年度向けBS公募のうち、一部系統BS公募において、ある1系統で応札がなく、調達未達が発生したと、中部電力パワーグリッドより報告があった。
- 応札がなかった理由について、中部電力パワーグリッドから過去の契約事業者に聞き取りを行ったところ、今後もBS公募に応札するためには2028年度にBS機能の改修が必要となるが、2030年度以降を対象としたBS公募において、当該系統が（系統対策工事の実施等により）募集対象外となった場合、BS機能設備費用を回収できないため、入札を見送ったとのこと。
- 中部電力パワーグリッドとしては、当該系統は引き続きBS機能が必要な位置づけであり、期間的かつ地域的に新規参入を見込むことが困難であることから、BS機能に関する設備費用の回収が見込まれることを前提に、随意契約によりBS機能を調達したいとのことだが、BS関連費用はレベニューキャップ制度の制御不能費用として託送料金に反映されることを踏まえれば、**本件への対応については、対策の必要性（当該系統におけるBS機能の必要性等）や手段の有効性（BS電源を確保する以外の手段）等の観点から慎重な検討が必要**になると考えられる。
- このため、電力広域的運営推進機関にて対策の必要性や手段の有効性等の観点から検討を実施したうえで、本会合で対応について御議論いただくこととしたい。なお、今後、BS機能公募含む特定地域立地電源公募について、類似の事案が発生した際には、同様の対応とする。

2. 用語の定義

(5) 一部系統ブラックスタート

「4. 募集容量 (2) 一部系統ブラックスタート ウ 対象系統」に定める対象系統の停電時において、非常用発電機等を使用し、外部電源より発電された電気を受電することなく契約電源等（一部系統）の起動・発電を行い、系統の周波数と電圧を適正な範囲に維持し、当該系統に対して需要に応じた電力供給を行うことをいいます。

4. 募集容量

(2) 一部系統ブラックスタート

ウ 対象系統

対象系統は次のとおりです。(入札を予定している発電所が対象系統に供給可能であるかについては当社にお問い合わせください。)

(ア) 戸台発D 1 B

(イ) 志久見川第一発D 1 B

(ウ) 中房第五発D 1 B

(エ) 朝日発D 1 B ・ D 2 B

- 事務局では、系統側対策費用について、中部電力パワーグリッドへの聞き取りやRCの事業計画との比較等を行っており、提案内容について妥当と判断している。よって、当該地域における一部BS機能調達の対策必要性および手段有効性を以下と評価してはどうか。
 - 配電切替による全量供給が困難な地域であり、年間を通して作業・事故時の両面で対策が必要
 - 一部BS機能調達による対策が最も経済性に優れ、工期面での実現性も高いことから最も合理的な手段
- このため、一部BS機能の調達方法について、引き続き、制度設計・監視専門会合にてご議論いただくこととしたい。
- なお今回は、経済性および工期の得失により一部BS機能の調達が最も優れているとの提案であったが、今後の需要減少や再エネ連系に伴う増強による工事規模の縮小等、状況変化を踏まえて、配電線連系力強化等の系統側対策を引き続き検討するよう中部電力パワーグリッドに求めることとしたい。